

## 2005 年度 小委員会活動成果報告

(2006 年 3 月 5 日作成)

小委員会名	情報社会デザイン小委員会	主 査 名：篠崎道彦 就任年月：2005 年 4 月																																				
所属本委員会 (所属運営委員会)	情報システム技術委員会	委員長名：新宮清志																																				
設 置 期 間	2005 年 4 月 ~ 2009 年 3 月																																					
設 置 目 的 各年度活動計画 (簡条書き)	<p>設置目的：情報社会は既に日常化していると考えられる一方で、絶え間のない情報技術の進歩や、膨大な情報の発生流動という変化の中であって、人々の生活や空間は、情報社会とどのように折り合いをつけていけばよいのだろうか。変化を主体とした「情報社会」と「デザイン」との関係について検討すべき課題は多い。本小委員会では、情報社会の生活や環境デザインの方法、それらを支える空間情報の利活用とマネージメントの技術などを切り口として、「情報社会」と「デザイン」の関係について考える。</p> <p>活動計画：本小委員会には、トランスネットワーク WG、環境情報デザイン WG、都市・地域計画情報 WG、ファシリティのあり方 WG の 4 つの WG を設置し、WG 単位の活動を中心に据える。</p> <p>(2005 年度)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小委員会を年 3 回(7 月, 11 月, 3 月)開催し、各 WG の情報交換による相乗効果を生み出す場とする。</li> <li>・ WG は情報シンポジウムにおいて活動報告を行う。</li> <li>・ 上記以外の成果公表の場として、出版、シンポジウム、論文、プロジェクト、WS などを想定する。</li> <li>・ シンポジウム、建築雑誌、ホームページなどに、最新情報の発信を行う</li> </ul> <p>(2006 年度)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小委員会を年 5 回(7 月, 9 月, 11 月, 1 月, 3 月)程度開催し、各 WG の情報交換による相乗効果を生み出す場とする。特に、活動 2 年目を迎える 2006 年度は、各 WG の中間成果を踏まえ、発表と議論の場を積極的に設け、必要に応じ相互の連携も強化する。</li> <li>・ 具体的には、5 回の小委員会のうち 2 回程度を外部にも開いた情報提供・交換の場とする。</li> <li>・ その他の成果公表の場として、出版、シンポジウム、論文、プロジェクト、WS などを想定する。また、建築雑誌、ホームページなどに、最新情報の発信を行う。</li> <li>・ 2006 年 3 月頃に 2 年間の活動成果を発表するべくシンポジウムを開催する。</li> </ul> <p>(2007 年度, 2008 年度)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前半 2 年間の活動成果をもとに委員構成、WG の編成などを見直した上で、後半の活動を展開する。</li> </ul>																																					
委員構成 (委員名(所属))	<p>委員公募の有無：有</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%;">主査</td> <td style="width: 20%;">篠崎 道彦</td> <td style="width: 70%;">芝浦工業大学 システム工学部環境システム学科</td> </tr> <tr> <td>幹事</td> <td>石曾根 栄之</td> <td>(株)バスプラスワン</td> </tr> <tr> <td>幹事</td> <td>本江 正茂</td> <td>宮城大学 事業構想学部デザイン情報学科</td> </tr> <tr> <td></td> <td>大内 宏友</td> <td>日本大学生産工学部 建築工学科</td> </tr> <tr> <td></td> <td>大場 亨</td> <td>市川市</td> </tr> <tr> <td></td> <td>沖塩 莊一郎</td> <td>東京理科大学</td> </tr> <tr> <td></td> <td>河 中 俊</td> <td>国土交通省国土技術政策総合研究所都市研究部</td> </tr> <tr> <td></td> <td>山田 邦夫</td> <td>(株)システムスタジオ</td> </tr> <tr> <td></td> <td>仲 隆介</td> <td>京都工芸繊維大学 繊維学部デザイン経営工学科</td> </tr> <tr> <td></td> <td>中西 泰人</td> <td>東京農工大学工学部 情報コミュニケーション工学科</td> </tr> <tr> <td></td> <td>元永 二郎</td> <td>フリー</td> </tr> <tr> <td></td> <td>渡邊 朗子</td> <td>慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科</td> </tr> </table>		主査	篠崎 道彦	芝浦工業大学 システム工学部環境システム学科	幹事	石曾根 栄之	(株)バスプラスワン	幹事	本江 正茂	宮城大学 事業構想学部デザイン情報学科		大内 宏友	日本大学生産工学部 建築工学科		大場 亨	市川市		沖塩 莊一郎	東京理科大学		河 中 俊	国土交通省国土技術政策総合研究所都市研究部		山田 邦夫	(株)システムスタジオ		仲 隆介	京都工芸繊維大学 繊維学部デザイン経営工学科		中西 泰人	東京農工大学工学部 情報コミュニケーション工学科		元永 二郎	フリー		渡邊 朗子	慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科
主査	篠崎 道彦	芝浦工業大学 システム工学部環境システム学科																																				
幹事	石曾根 栄之	(株)バスプラスワン																																				
幹事	本江 正茂	宮城大学 事業構想学部デザイン情報学科																																				
	大内 宏友	日本大学生産工学部 建築工学科																																				
	大場 亨	市川市																																				
	沖塩 莊一郎	東京理科大学																																				
	河 中 俊	国土交通省国土技術政策総合研究所都市研究部																																				
	山田 邦夫	(株)システムスタジオ																																				
	仲 隆介	京都工芸繊維大学 繊維学部デザイン経営工学科																																				
	中西 泰人	東京農工大学工学部 情報コミュニケーション工学科																																				
	元永 二郎	フリー																																				
	渡邊 朗子	慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科																																				

<p style="text-align: center;">設置 WG (WG名:目的)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. トランスネットワークシティ WG: 様々なネットワークが複雑に重層して構成されている現代都市においては、これらのネットワークを束ね、それらを利用する人々との間にあるインターフェイスとして《建築》を再定義し、諸ネットワークを有機的に連動させ、それらの潜在力を最大に発揮させる必要がある。そこで、本 WG では、建造環境と情報環境を横断するトランスネットワーク的な事象についての情報収集と共有・討議をすすめ、具体的な研究プロジェクトを行う。</li> <li>2. 環境情報デザイン WG: 情報社会デザイン形成にむけて環境デザインの側面から考察、活動する。</li> <li>3. 都市・地域計画情報 WG: 高度情報化社会はネットワークの強化により個(部分)が全体に属することで画一化を起し、全体を構成する個が独自性を失ってしまう危険性を持つ。その意味でユビキタス・ネットワーク社会は今まで以上に普遍性を持ちつつ同時に独自性や地域性、ローカリゼーションが成立するシステムの探求が求められているといえる。本 WG は情報化社会に対応しつつ、同時に地域のコミュニィとも融合するデジタルコミュニティの構築に対応しえる都市・地域計画手法の提案を行う。</li> <li>4. ファシリティのあり方 WG: 情報化・ユビキタス社会において、施設に関わる人・物・お金・時間等の相関について考え、公共施設を始めとするファシリティのあり方の研究、そしてそのマネジメントに有効な IT 活用方法の研究を行う。主たるテーマとしては、次の2点を重点的に行う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ IT の活用により、時間や場所を問わず、仕事や勉強を行うためのファシリティの在り方事例研究</li> <li>・ IT を駆使した建物マネジメントツールの事例研究</li> </ul> </li> </ol>	
<p>2005 年度予算</p>	<p>230,000 円</p>	<p>ホームページ公開の有無: 有 委員会 HP アドレス: <a href="http://news-sv.aij.or.jp/jyoho/M010/">http://news-sv.aij.or.jp/jyoho/M010/</a></p>

項 目	自己評価
<p>委員会開催数</p>	<p>3 回 (年度内計画を含む)</p>
<p>刊行物 (シンポジウム資料等は除く)</p>	
<p>講習会</p>	
<p>催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)</p>	<p>シンポジウム: 「Beyond The Internet Decade - 建築・都市は情報社会の期待にこたえてきたか」開催 (2005 年.6 月 20 日: 建築会館ホール) 参加者数 67 名</p>
<p>大会研究集会</p>	
<p>対外的意見表明・パブリックコメント等</p>	

<p>目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小委員会は予定回数(3回)を開催,他に幹事会1回を開催した。</li> <li>2. 6月20日にシンポジウムを開催し,成果の公開を行った。活動の中心に据えているWGの成果は以下の通りである。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 環境情報デザインWG:2005年6月20日 シンポジウム「Beyond The Internet Decade」に参加。2006年1月24日 環境情報デザインWG特別ワークショップ開催。このワークショップでは、ユビキタス都市のビジョン——建築と情報をつなぎ直すIT×デザインの可能性と題して、5から10年後のユビキタスなメディアのあり方を軸に多彩な参加者&lt;竹村真一(京都造形芸術大学教授)をはじめ、太田浩史(建築家、東京大学21世紀COE特任研究員) 福富忠和(国際大学グローバルコミュニケーションセンター教授)ほか&gt;とともに環境情報デザインの可能性と課題を再検討した。</li> <li>・ トランスネットワークシティWG:6月20日のシンポジウム「Beyond The Internet Decade」にて、情報と空間の新しいかたちを示唆するプロジェクトを集めた映像Webデモを本WGで担当。また本江主査は「建築の視点」から発表を行った。その準備には学会のテレビ会議システムを活用した。</li> <li>・ ファシリティのあり方WG:7月28日,FM見学事例として、大崎にあるソニーファシリティマネジメント社を訪問,SWINGと呼ばれるネットワークインフラやフリーアドレス形式の新オフィスを体感し、オフィス空間に関する関連討議を行った。1月18日,FM関連ITツールの研究として、日本IBMのFMコンサルティング事例とNTTファシリティーズの携帯利用の建物保全事例の発表を受けた。IBMは、自社FMから最新のマブチモーター本社のコンサル事例,NTTFは、FOMAを利用した遠隔保全対応事例のプロトタイプだった。</li> </ul> </li> <li>3. 小委員会のうち,1回は地理情報システム学会自治体分科会との共催で,電子国土の事例検討を行った(3月3日)。国,地方自治体,NPOの活動の最前線の報告と議論から,都市・地域計画情報WGをはじめ,他WGの活動にとって多くの示唆を得ることができた</li> <li>4. 書籍,雑誌,ホームページ等への情報発信は小委員会としてではなく,メンバー個人の関連成果の公表などに留まった。</li> </ol>
<p>委員会活動の問題点 ・課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学際的でかつ内容が多岐にわたるWGを中心とした活動を展開しているため小委員会としては,連携と相乗効果を生み出す場づくりをどのように行うことが課題である。</li> <li>2. WG委員がのべ40名を超えるが,予算原案作成時に小委員会委員による旅費算定しか認められないため,十分な予算確保ができていない。</li> </ol>
<p>その他</p>	